

## 第 22 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

### 情報提供・相談支援部会 議事要旨

日時：2024 年 5 月 24 日（金）13:00-15:00

開催形式：オンライン開催(Zoomミーティング)

#### 1. 開会の挨拶

(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 議長/国立がん研究センター理事長 中釜 斉)

情報提供・相談支援部会ができてから10数年経過しているが、これまでの取組を振り返りながら、改めて当部会ががん医療の均てん化にどのような役割を果たしているかを考えてみたい。さらに第4期のがん対策推進基本計画を踏まえた上で、今後日本におけるがん医療の均てん化をどのように図っていくかという視点で、皆様の忌憚のないご意見を伺いたい。

#### 本日の出席者について

(国立がん研究センター がん対策研究所 情報提供・相談支援部会事務局 宮本 紗代)

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 参加施設の情報提供・相談支援の責任者またはそれに準ずる方、実務者の方々、合計128名の方に、また小児がん拠点病院相談支援部会の相談員の皆様と、都道府県のがん対策主管課の皆様にもオブザーバーとして参加いただいている。

#### オブザーバー紹介 (がん対策研究所 宮本)

富山AYA世代がん患者会 Colors 代表 樋口 麻衣子 様

一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン 理事長 天野 慎介 様

#### 2. 厚生労働省より挨拶

(厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 相談支援専門官 戸石 輝 様)

情報提供・相談支援という分野は、医学的な部分だけでなく、社会や文化の変化に対応する必要があり、特にがん相談支援センターでは多様化、複雑化するニーズに対応していただいている。様々な変化の中で、当部会のあり方の再検討も必要になってきていると認識している。また、がん診療連携拠点病院等の整備指針では、都道府県協議会の主な役割としてBCPについての議論をお願いし、がん診療連携拠点病院等にはBCPを策定することが望ましいとしている。その中で、災害時のがん情報提供・相談支援の検討も重要だと考えている。引き続き、昨年3月に閣議決定された第4期がん対策推進基本計画に記載されているがん対策について、皆様と連携しながら取り組みを進めてまいりたい。また本日の検討を通じて、より多くのがん患者や家族に質の高い支援・情報提供がなされることを期待するとともに、皆様の知見をご教授いただきたい。

#### 3. 本日の概要 資料 3 スライド 4

(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会 部会長／

国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報提供部長 松岡 豊)

#### 4. 情報提供・相談支援部会のこれまでの歩みと成果 **資料 3** スライド 6～23

(国立がん研究センター がん対策研究所 情報提供・相談支援部会事務局 八巻 知香子)

当部会の親会である都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会が設置されたのは2008年で、当部会は2012年に設置されている。以後、整備指針が変わるたびに増える課題に対応しながら、4回にわたってワーキンググループを組織し、どのような情報提供、相談対応を行うことが患者さんにとって望ましいのかを模索しながら進んできた。患者・家族のニーズを集約し提言すること、患者目線からのフィードバックをいただくことも大事にしながら運営している。ワーキンググループの協議事項は提案書として厚生労働省に提出されており、整備指針に反映されているものも多くある。

#### 5. 今後の情報提供・相談支援部会のあり方に関するアンケートの報告 **資料 3** スライド 25～31

(がん対策研究所 八巻 知香子)

当部会の活動についてのアンケートを皆様からいただいたので結果についてご報告したい。

部会の意義として、自施設や自県での取り組みの質向上に寄与できている一方、がん対策に現場の声を反映できているという点の評価は低く、直接関与が及ばない範囲での難しさがあると考えられた。好事例報告については、管理者・相談員自身それぞれにある程度影響力があったというご意見をいただいている。また部会の開催については現状維持の年2回開催がいいというのが大多数のご意見で、オンライン開催の簡便さと対面開催の良さの両方についてご意見をいただいたので、オンラインを基本として、時折対面開催を交えていくのがご希望に沿う方法かと事務局としては考えている。

#### ・ディスカッション (進行: がん対策研究所 松岡部会長)

(がん対策研究所 松岡部会長)

何かご意見、ご質問があればいただきたい。

(滋賀県立総合病院 山内委員)

この部会の内容を滋賀県の各拠点病院に伝えてはいるが、なかなか伝えきれていないと感じている。希望される拠点病院の方が広く参加される機会があってもいいのではないかと思う。

(琉球大学病院 増田委員)

現在、親協議会は報告会や好事例の発表の場になっているが、本来は協議、審議する場だと思うので、ワーキンググループや部会から上がってきた案件をきちんと審議して、責任をもって行動を起こしていくような場であってほしい。そのためにも本部会においては恒常的にワーキンググループを設けておいて、各拠点病院からの問題点を随時受け付けるというような形にして活性化していく必要があるのではないか。親協議会にも是非あり方について協議していただくよう意見を上げていただきたい。

(がん対策研究所 松岡部会長)

大変建設的なご提案をいただき感謝したい。私は親会でも事務局を務めているので、いただいたご提案についてはそちらでも情報共有しつつ進めていきたい。

**(琉球大学病院 増田委員)**

例えば具体的に言うと、現在治療が始まるまでに全員ががん相談支援センターを訪問することが義務化されているが、整備指針が改定されて2年、琉球大学病院ではうまくいっていない。おそらく主に病院幹部の理解不足が原因ではないかと思うが、そういったことはもっと大きな視点で考えていかなければ解決しないので、是非親会で検討していただきたい。

**(がん対策研究所 松岡部会長)**

ご意見について、事務局で受け取ったので検討させていただきたい。

## 6. 大規模災害時のがん相談支援センター間の情報共有について **資料 3** スライド 33～52

### ・熊本地震の経験から災害時のがん相談支援センターの役割を考える

(熊本大学医学部附属病院 安達 美樹 様)

### ・災害時のがん患者受け入れ状況に関する情報共有の仕組みについて **資料 3** スライド 54～61

(国立がん研究センター がん対策研究所 情報提供・相談支援部会事務局 小郷 祐子)

### ・質疑応答(進行: がん対策研究所 松岡部会長)

**(秋田大学医学部附属病院 伊藤委員)**

災害時病院情報入力フォームは、どの程度の災害時に入力するなど目安はあるか。

**(事務局 小郷)**

機能が停止している病院が広範囲に及んでいるなど、影響が長期化しそうな状況、地震でいうと震度7程度の震災を想定している。これまでもNCCから該当都道府県に状況を伺い個別判断をしてきた背景があるため、そのように対応していきたい。また九州がんセンターとの意識合わせも行っていく必要がある。

## 7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について **資料 3** スライド 63～74

(国立がん研究センター がん対策研究所 情報提供・相談支援部会事務局 櫻井 雅代)

## 8. その他

### ・オブザーバーからのコメント

**富山AYA世代がん患者会Colors代表 樋口 麻衣子 様**

本日の部会で皆さんが系統的に学んでおられることを知り、患者として安心感を覚えた。部会内でさまざまな実践報告や好事例報告を行っていると思うが、おそらくがん相談支援センターに自ら到達できている方は一歩進んだ患者であると感じている。実際に私たち患者会で相談支援センターのことを知っている人は半分もない。今の実践も大事だが、まだ取り残されている患者さんが大勢いることを考慮し、全員がたどり着けるような統一した仕組みを当部会

で検討して、実装していただけたら大変ありがたい。

**一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長 天野 慎介 様**

私からは4点申し上げたい。

まず次回改定で整備指針の必須要件となる「患者さんや家族が一度はがん相談支援センターを訪問できる体制を整備する」について、現場の負担が非常に大きいという声もある一方で、体制を整えてから医師の裁量によるところが多い従来の傾向が変わってきているという声を複数の医師から聞いている。是非各拠点病院で進めていただきたい。

2点目に、相談支援センターの人員の増員については強く要望しているものの未だに反映されていない。今後も厳しいことを考えると、むしろ現場のほうから相談支援センターのあり方を提案していったほうが実現性が高いのではないかと本日の議論を聞いていて感じた。

3点目に、施設別がん登録件数検索システムについて、一部の症例数について相談支援センターの人しか見られない状況になっていることが、がん登録の利活用が進んでいない元凶の1つになっていると思う。症例数の公開はむしろ公衆衛生に資すると考えられるので、現在のがん登録件数検索システムのあり方は再考していただきたい。

4点目に、相談支援センターで「主治医との関係がうまくいかない」旨の相談をしたら主治医も知っていたという事例を聞いている。守秘義務上でも大きな問題だと思われる。患者さんの立場に立った相談をする場として、認識の改善を是非お願いしたい。

**・ディスカッション (進行: がん対策研究所 宮本)**

**(がん対策研究所 宮本)**

ご意見を踏まえて取組を進めてまいりたい。ご感想、ご意見等あれば伺いたい。

**(琉球大学病院 増田委員)**

今いただいたお二人のご意見について、第5期のワーキンググループなどで取り上げてきちんとした形にしていくべきだと思う。

**(がん対策研究所 松岡部会長)**

天野様、増田先生のご意見を踏まえ、まず事務局で整理した上で対応を検討していきたい。

**9. 閉会の挨拶**

**(がん対策研究所 松岡部会長)**

本日はさまざまなご意見、ご感想を賜り感謝申し上げます。

いただいたご意見について、最終的には拠点病院の機能強化、がん医療の均てん化を目指して、どうするのが一番良いかを整理しながら形にしていきたいと考えている。引き続き、ワーキングを含めて先生方には部会の運営にご協力をいただきますようお願い申し上げます。

以上